

1. 2018年の分類別国内医療機器市場規模

医機連通信 267号や医機連ジャーナル 107号で既報の通り、2018年の国内医療機器の市場規模は総額で2兆9027億円でした。2018年の国内医療機器市場の大分類別の内訳は図1に示します。

大分類別では、8388億円の処置用機器が最大の市場規模であり、次いで生体機能補助・代行機器(6594億円)、眼科用品及び関連製品(2750億円)、画像診断システム(2620億円)で国内市場を構成しています。

今回、ここでは過去13年(2006年～2018年)の薬事工業生産動態統計*1を用いて、大分類ごとの国内市場規模(生産+輸出-輸入)の推移を振り返りました。

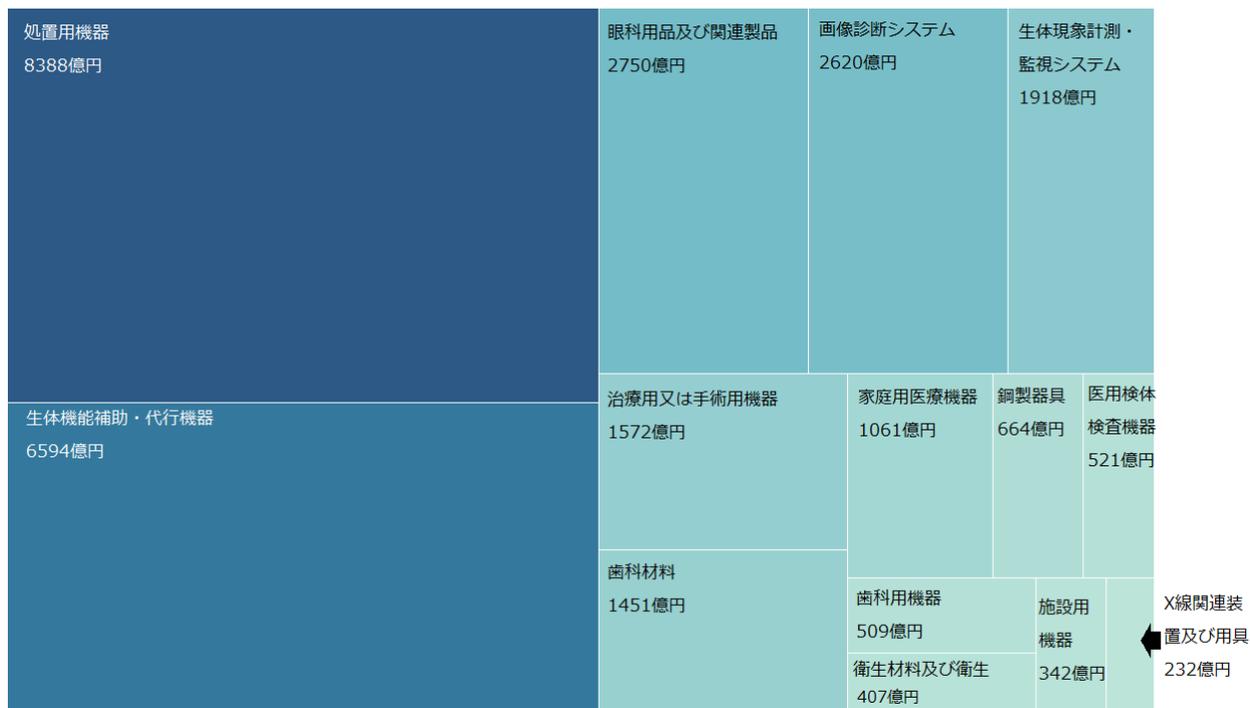


図1：2018年の国内医療機器市場(2兆9027億円)の内訳

2. 大分類別の市場規模の推移

2-1. 画像診断システム(2018年の国内市場規模：2620億円)

X線CT装置やMRI、超音波診断装置等からなる大分類です。直近の3年は前年比微増ですが、特に目立って伸びている医療機器群はなく、全体としては横ばい傾向です。

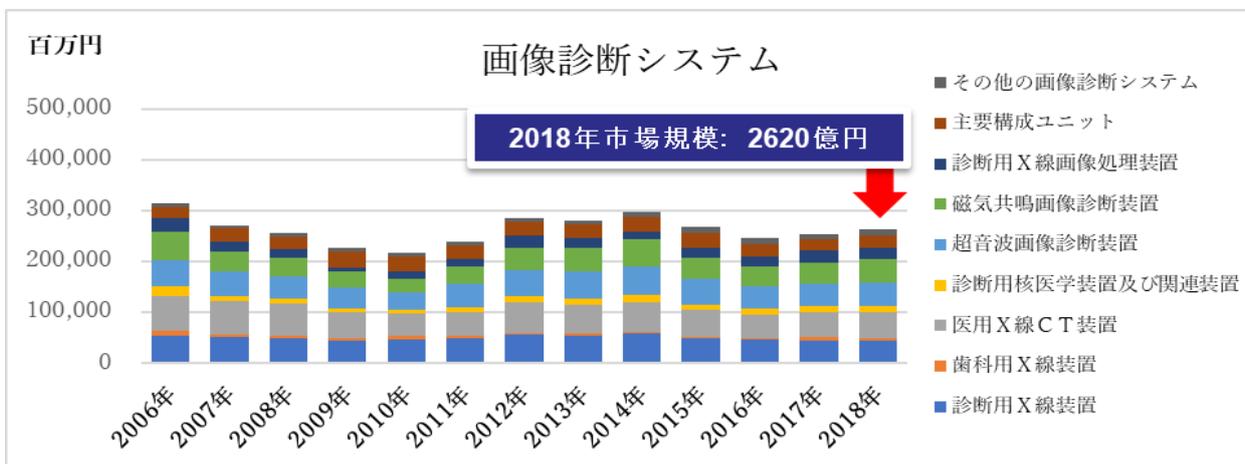


図2：画像診断システムの国内市場規模の推移(2006-2018年)

2-2. 画像診断用 X 線関連装置及び用具(2018 年の国内市場規模：232 億円)

X 線の防護用品やフィルム等の X 線撮影関連用品を含む大分類です。2007 年のピーク時に比べて約 1/4 までの市場規模減少は「医用写真フィルム」の激減が要因です。X 線装置のデジタル化により、フィルムの需要が減ったことが要因と考えられます*2。



図 3：画像診断用 X 線関連装置及び用具の国内市場規模の推移(2006-2018 年)

2-3. 生体現象計測・監視システム(2018 年の国内市場規模：1918 億円)

血圧計や体温計、心電計、生体情報モニタ、内視鏡等からなる大分類です。医用内視鏡が大半を占めており、2015 年から医用内視鏡が下降、横ばいになったのに伴い、大分類全体としては横ばい傾向を示す状況にあります。

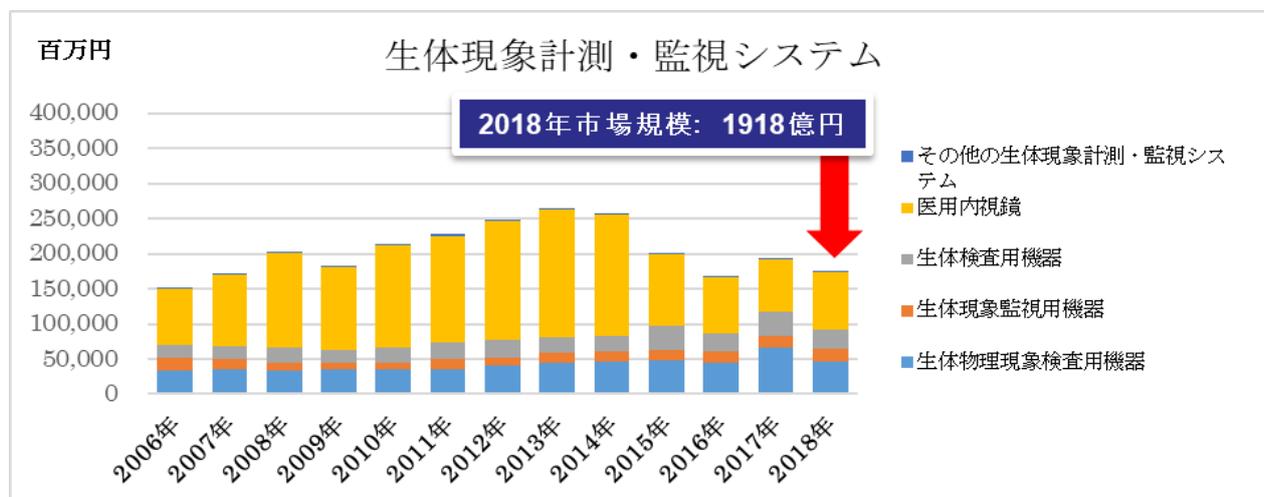


図 4：生体現象計測・監視システムの国内市場規模の推移(2006-2018 年)

2-4. 医用検体検査機器(2018 年の国内市場規模：521 億円)

血液や血ガス、尿、免疫などの検体検査に関する医療機器からなる大分類で、2016 年の急増は臨床化学検査機器(臨床科学自動分析装置と免疫反応測定装置)によるもので、全体として若干の低下が見られるもののほぼ横ばい傾向が続きます。

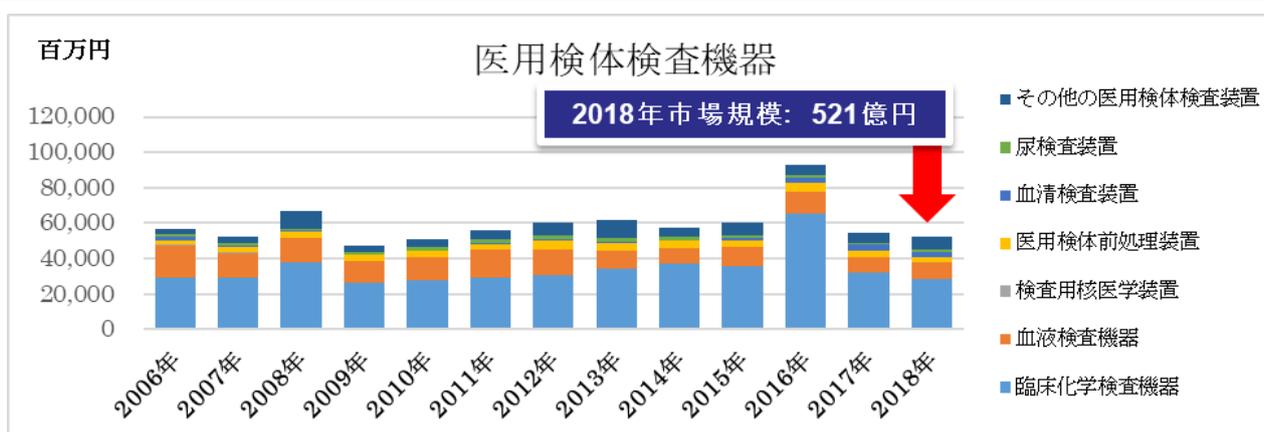


図 5：医用検体検査機器の国内市場規模の推移(2006-2018年)

2-5. 処置用機器(2018年の国内市場規模：8388億円)

注射器具、チューブ及びカテーテル、糸等を含む、国内最大の市場規模となる大分類です。市場の大半を占めるチューブ及びカテーテルは好調でしたが、それ以外の医療機器群は全て前年比減でした。大分類全体として前年比 11.9%減と 2007 年以降で初の減少となりました。

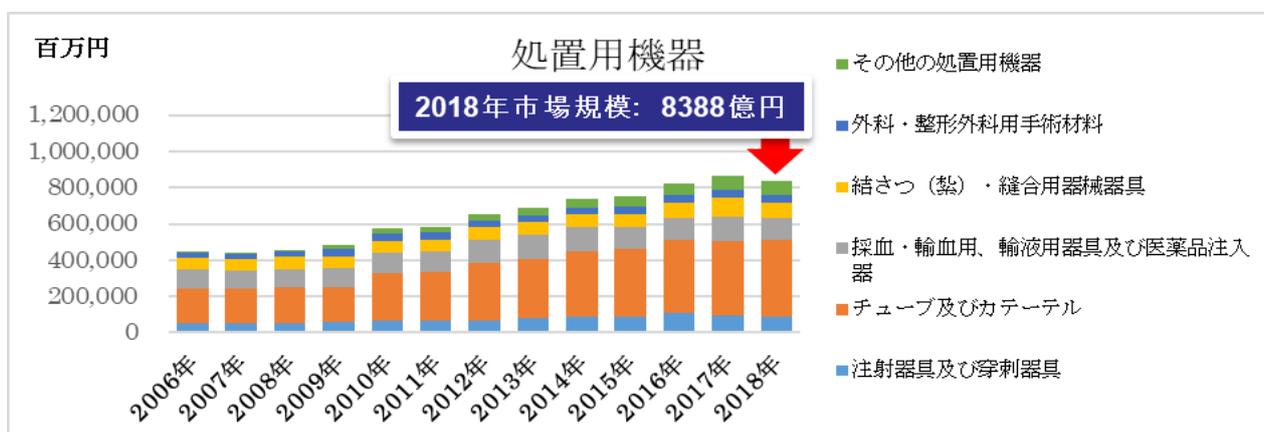


図 6：処置用機器の国内市場規模の推移(2006-2018年)

2-6. 施設用機器(2018年の国内市場規模：342億円)

ネブライザーや吸引器、滅菌器、洗浄器、手術台等からなる大分類です。「医科用手術台及び診療台」の業績に応じて大分類全体が大きく変動しますが、全体としては横ばい傾向です。



図 7：施設用機器の国内市場規模の推移(2006-2018年)

2-7. 生体機能補助・代行機器(2018年の国内市場規模：6594億円)

人工血管や人工関節、ペースメーカー、ステント、透析器、人工心肺装置、人工呼吸器、除細動器等からなる大分類です。人工関節や人工骨などを含む「生体内移植器具」により、大分類全体としては増加傾向ですが、医療機器単位では人工血管やステントが横ばい傾向でした。



図 8 : 生体機能補助・代行機器の国内市場規模の推移(2006-2018年)

2-8. 治療用又は手術用機器(2018年の国内市場規模: 1572億円)

放射線や粒子、レーザーを用いた治療機器や、ハイパーサーミア、理学療法や手術用の機器を含む大分類です。「手術用電気器及び関連装置」においては、概ね成長傾向にあるものの、その内訳は電機手術器が減少し、超音波手術器や手術用顕微鏡が急増しています。また、手術用ロボットを含む「その他の手術用電気機器及び関連装置」も増加傾向にあります。



図 9 : 治療用又は手術用機器の国内市場規模の推移(2006-2018年)

2-9. 歯科用機器(2018年の国内市場規模: 509億円)

歯科診察や矯正、歯科技工に関する医療機器や歯科用ユニット等を含む大分類です。歯科診療室用機器は増加、歯科ユニット及び関連器具が減少傾向であり、全体としては横ばいです。



図 10 : 歯科用機器の国内市場規模の推移(2006-2018年)

2-10. 歯科材料(2018年の国内市場規模：1451億円)

歯科用金属や歯冠、義歯等の材料からなる大分類です。過去13年において、歯科用金属を除けば横ばいまたは減少傾向にありました。過去13年で増加している歯科金属において「歯科用金銀パラジウム合金」が大半を占めています。



図 11：歯科材料の国内市場規模の推移(2006-2018年)

2-11. 鋼製器具(2018年の国内市場規模：664億円)

メスやピンセット、鉗子等を含む大分類です。どの分類も増加傾向にある中で、特に整形外科手術用器械器具のここ3年の急増は「骨接合用及び骨手術用器具」の増加が要因です。

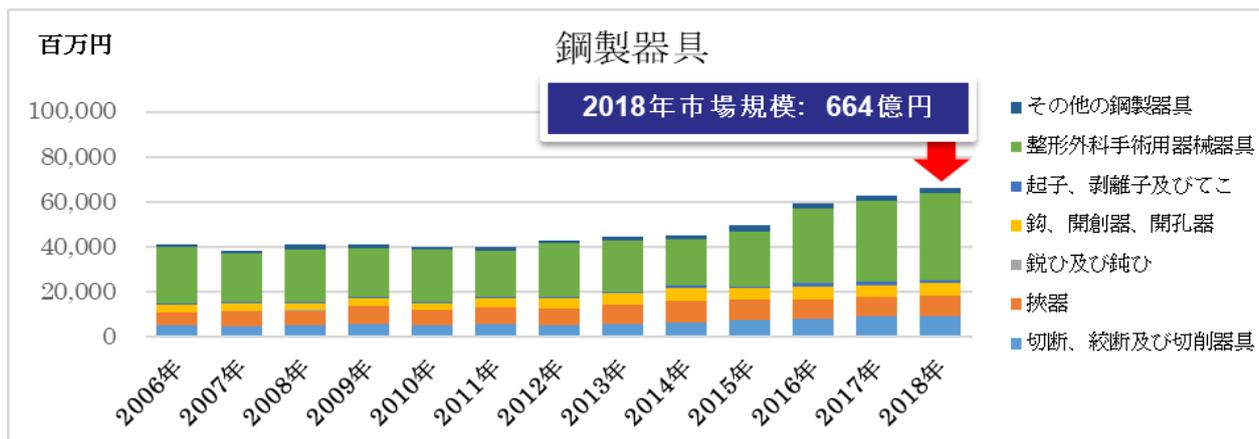


図 12：鋼製器具の国内市場規模の推移(2006-2018年)

2-12. 眼科用品及び関連製品(2018年の国内市場規模：2750億円)

眼鏡やレンズ、コンタクトレンズからなる大分類です。大分類全体として増加傾向にありますが、眼鏡レンズの減少により、コンタクトレンズが市場のほとんどを占めています。



図 13：眼科用品及び関連製品の国内市場規模の推移(2006-2018年)

2-13. 衛生材料及び衛生用品(2018年の国内市場規模：407億円)

手術用手袋や、指サック、ガーゼ等を含む大分類です。2015年以降の衛生用品の急増は「手術用手袋及び指サック」の輸入の急増が要因です。



図 14：衛生材料及び衛生用品の国内市場規模の推移(2006-2018年)

2-14. 家庭用医療機器(2018年の国内市場規模：1061億円)

家庭用マッサージ器や家庭用磁気治療器、補聴器等を含む大分類です。2017年までは増加傾向にあり、2018年も家庭用衛生用品等伸びた医療機器もありました。しかし、家庭用磁気・熱療法治療器(特に「家庭用磁気刺激装置」)の落ち込みが大きく、大分類全体としては前年比31.4%と大きく落ち込みました。

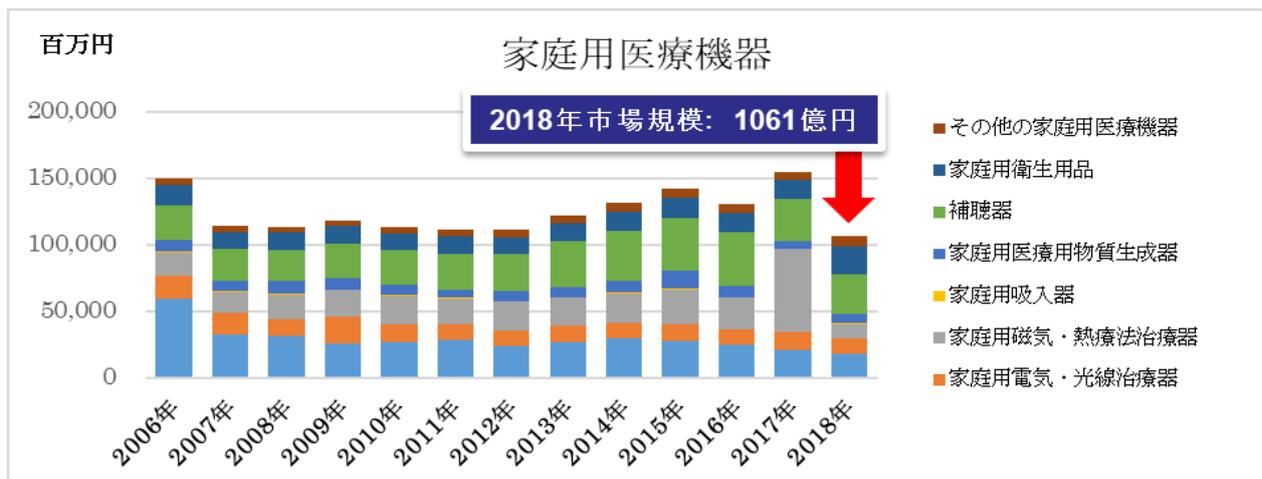


図 15：家庭用医療機器の国内市場規模の推移(2006-2018年)

3. まとめ

2017年に国内市場規模が初めて3兆円を越えましたが、2018年は2兆9027億円と前期比で減少しましたが、過去15年のCAGRは2.3%と国内市場は微増しています。2018年において特に気になって点は、これまで国内市場を牽引し、国内で最大の医療機器市場を有する「処置用機器」の減少です。処置用機器は患者単位で使用する医療機器で、患者数と高い相関があり、患者数の推移とともに今後の展開に注視していく必要があります。

*1. <https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/105-1c.html>

*2. <https://www.jssoc.or.jp/other/info/info20120222.html>

(医療機器政策調査研究所 茂木淳一 記)

医療機器政策調査研究所からのお知らせ  @JFMDA_MDPRO
Twitterで医療機器産業に関連するニュースを配信中。医機連トップページからフォローできます。